

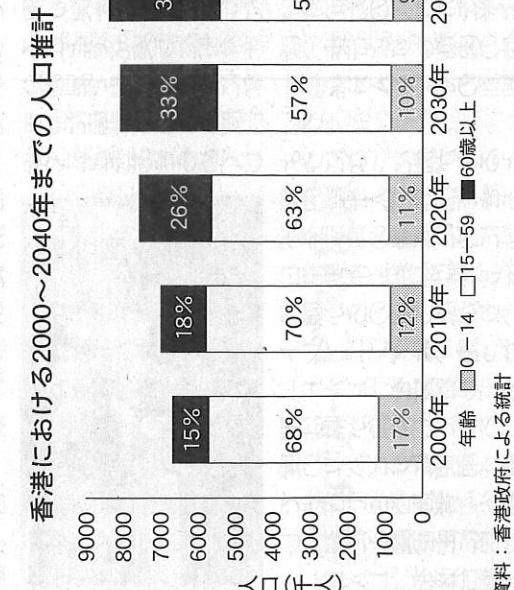
中華傳者人之傳也

港の現場 香語介



▲NPO法人が運営する高齢者施設の風景。利用者がロビーでくつろぐ

地価高騰で利用料金も高くなる



資料：晉書政府による統計

高齢者住宅新聞が5月17日から4日間にわたり実施した香港ツアーハンズをレポートする。NPO団体などの非営利団体による運営が主流な香港の高齢者施設。高齢化が進むなか、認知症などの中重度者ケアに注力する施設も出てきている。

運営はNPOが主流

高齢化進む
2030年30%超

日本と同様、香港では少子高齢化が深刻な問題となつてゐる。2010年に18%だった高齢化率は2030年には39%を超えるとの推計が出されている(左グラフ参照)。

香港政府は2000年、「高齢者サービスの評価機構」を立ち上げ、介護度別に高齢者が受けれるサービスを決める制度を始めた。「老有所属・老有所養・老有所為」(いつまでも居場所があり、助けてくれる人がいて、頼れる所がある)といふことを高齢者施策の

スローガンとして掲げ
る。

高齢者施設の種類には「長者宿舎」「安老院」「護理安老院」「護養院」があり、後者になるほど利用者の医療依存度や介護度が高くなる。香港の高齢者施設はNPO団体などの非営利団体による運営が主流で、民間企業による施設は中国本土で比較するよりもまだ珍しいところ。

月々の利用料

今回のツアーでは、
・民間両方の施設を訪問。施設の月々の利用料費・食費を合わせると日本円換算で10万円~16

日本特別養護老人ホームにあたる「雅明灣畔護養院」は現在、利用者124名のうち、75名が自費、49名が政府からの助成を受けしており、低所得者や独居高齢者など助けられないと利用者が半数近くいるのが現状だという。

認知症ケア

各施設であがつた共通の課題の一つが認知症ケア。すでに認知症の専門フロアを用意して、医療職がケアを行っていたり、回想法の一環として昔の写真を施設内に飾つたりする施設もあれば、これから認知症に特化したケアができるよう高齢者福祉の取り手として体制を整えようとしているのが、ボランティアによる施設もあつた。

しかし身体拘束をする場面も見受けられ、これについて参加者がスタッフに問い合わせると「可能な限り拘束はしたくないが、やむを得ない場合は家族に許可を得て拘束する場合もある」と答えた。

人材問題

認知症ケアのはかに、担当者からあげられたもう一つの課題が人材の確保である。香港政府の高齢者。これについてが認定する資格制度はあるものの「認知症などにまで元気になりたい」と民間施設の担当者は話す。そのような中、訪問先の施設では数名のボランティアが利用者の前で、歌を披露するなどソーシャルクリエーションを行っていた。

また、香港島にあるキリスト教慈善団体が運営するコヨーテセンターや、約70名のボランティアがサービスを提供している。また、その半数近くが60歳以上の中高齢者。これまで元気になりたいと民間施設の担当者は話す。

少子高齢化が深刻な問題となつてゐる。2010年には18%だった高齢率は2030年には30%を超えるとの推計が出されている(左グラフ参照)。

香港政府は2000年、「高齢者サービスの評価機構」を立ち上げ、介護度別に高齢者が受けれるサービスを決める制度を始めた。「老有所属・老有所養・老有所為」(いつもでも居場所があり、助けてくれる人がいて、頼れる所がある)と、少子高齢化が深刻な問題となり、後者になるほど利用者の医療依存度や介護度が高くなる。香港の施設の利用料は地のスタッフは「香港高齢者施設はNPO団体などの非営利団体による運営が主流で、民間企業による施設は中国本土と比較するこまだらか珍しいといふ。

月々の利用料は、今回のツアーでは公立・民間両方の施設を訪問。施設の月々の利用料は一般的に介護サービス費・食費を合わせると日本円換算で10万円~16万円ほど。これについて、現地のスタッフは「香港では地価の高騰が高齢者人口ほどで、利用者の年金だけでは利用料を賄つことが難しく、利用者のほとんどが家族からの経済的援助または政府からの補助を受けている。日本の参加者は、「香港の所得を踏まえてと経済的に非常に厳しいのではないか」と驚きの様子を見せた。

日本特別養護老人ホームにあたる「雅明津畔

しかし身体拘束をする
画面も見受けられ、これ
について参加者がスタッフ
に問い合わせる。「可能
限り拘束はしたくない
やむを得ない場合は
族に許可を得て拘束す
場合もある」と答えた。

認知症ケアができるよう
体制を整えていくとして
る施設もあった。

高齢者福祉の担当手ひこ
て活躍しているのが、ボ
ランティアだ。

訪問先の施設では数名
のボランティアが利用者
の前で、歌を披露するな
どのレクリエーションを行
っていた。

また、香港島にあるキ
リスト教慈善団体が運営
するコヨニティセンタ
ーは、約700名のボラ
ンティアがサークルを提
供している。また、
その半数近くが60歳以上
の高齢者。これにつけて
担当者は「高齢者がいつ
までも元気になりながら
持つて生活してもらいたい
やうに」と語る。

日本企業の参入、厳しく



日中福祉
プランニン
グ王青代表
政府の補助

かつてイギリスの植民地だった香港は、世界金融の中核として、経済が発展している反面、高齢化が急速に進んでおり、その対策がまだ十分とは言えません。施設の整備が十分に進んでいないほか、施設の月々の利用料が非常に高いことに驚きました。

で介護が成り立っている世界。100%民間による施設は、果たしてどうか。日本企業の進出は当分難しい気がします。

アイア制度が発展していることなど、日本側にあっても学ぶべきです。香港の福祉関係業界には、日本の福祉介護の情報が行き届きました。今回ツアーレポートを端緒に、双方の交流を深めていく役立きたいと思います。

tenuto マルチ
新しい介護浴槽 「テヌート」

自立サポート入浴 / リクライニング
テヌート HK-730 / RA-2

目標はおうちのお風呂のリラック
気持ちはよく入れる介護浴槽です

一般的な家庭のお風呂に近い印象を感じて頂けるデザインを目指しました。
「機械浴には抵抗がある」という方にも、より心地よい入浴を楽しんでいた
だくことができます。

マルチ
浴槽
設計
4石
快適
入浴
簡単
入浴
1浴

元気な暮らしを積極的に続けていくという行動であり、考え方では、「元気な暮らしを私たちの企業活動と重ねていきたい」。彼らは、「OG Wellness(オージーウエルネス)」をブランド名としています。

OG Wellness

